

平成24年度 事業計画書

平成24年3月1日から平成25年2月28日まで

<平成24年度の活動指針>

- ①昨年度から公益社団法人日本油化学会として認定されたので、今年度も新しい定款の下で本会の活動を行う。また、必要な体制整備も行う。
- ②学術面では、昨年3月11日に発生した東日本大震災の影響で延期していたWorld Congress on Oleo Science & 29th ISF Congressの略称をWCOS 2012として9月30日(日)～10月4日(木)に長崎県佐世保市で開催し、第50回年会(河合武司実行委員長)と第51回年会(柴田攻実行委員長)を同時に開催する。また、昨年開催したフレッシュマンサミットが好評であったので、今年度の開催も検討する。その他、新しい時代のニーズに即した企画や、専門部会・支部によるセミナー・講演会等を実施する。
- ③学会誌:学術論文誌「JOS」は、念願のインパクトファクターが1.094と当初目標の1.0を超えることができたので、さらにポイントアップを図り、国際誌としての地位を確立する。また、会員誌「オレオサイエンス」は会員に役立つ情報の発信および親しみやすい雑誌づくりを目指し、HP(ホームページ)による敏速な情報発信についても努力する。
- ④上記の②で述べた様に、昨年から延期にしていたWCOS2012と第50回と第51回年会および創立60周年記念大会(学術討論集会)は、長崎県(佐世保市)で実施することを決めており、特に60周年記念行事として、ノーベル賞受賞者等の講演会を実施する。また、同60周年記念事業の一環として、「オレオサイエンス フェア」を開催する。更に、60周年記念出版として「油脂・脂質・界面活性剤データブック」及び「基準油脂分析試験法(改訂版)」を発行する。
- ⑤社会貢献の一環として、財団法人油脂工業会館との共催で実施している地区講演会(市民講座)は、本年度も3支部が中心となって全国の地方都市で行なう。

1 会務

1.1 総会

第58回定時総会を平成24年4月25日、油脂工業会館において、正会員を社員として開催する。公益社団法人日本油化学会として平成23年度事業報告(報告事項)、平成23年度決算案などについて審議し、平成24年度役員を選任を行う。定時総会終了後、全会員を対象に総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに日本油化学会名誉会員およびフェローの推戴を行うとともに、平成23年度日本油化学会学会賞、進歩賞ならびに功績賞、女性科学者奨励賞の各賞の選考結果報告と表彰を行う。

1.2 理事会

平成24年度理事会の開催予定は5回。平成24年度会長(代表理事)、副会長(代表理事)、常務理事(業務執行理事)の選定、運営委員長、各業務委員長および支部長等の委嘱、諸事業計画の企画・実行、平成23年度収支決算案および平成25年度収支予算等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定は6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な検討を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、公益社団法人としての内部体制の整備と会員への周知を行う。さらに、会員増強に関する施策

や、ホームページの充実についても継続的に検討する。

2 事業計画

2.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

2.1.1 研究成果の公開

(1) 日本油化学会年会の開催

昨年、東日本大震災の影響をうけ延期を余儀なくされた日本油化学会年会は、第50・51回合同年会としてアルカス佐世保（長崎県佐世保市）において、9月30日（日）－10月4日（木）に開催する。国際学会（World Congress on Oleo Science & 29th ISF Congress）を同時開催し、一般発表（口頭およびポスター）の他に、Plenary Lecture, Interdisciplinary Lecture, 本会とAOCs（米国油化学会）、KOCS（韓国油化学会）とのJoint Meeting等を開催する。9月30日には、創立60周年を記念した一般市民向け講演会を開催する。

(2) 論文誌・会員誌の発行

JOS編集委員会は、論文誌「Journal of Oleo Science」を12号発行する。「JOS」掲載の“Preface”あるいは「オレオサイエンス」掲載の“JOS編集委員会より”の記事等を通して会員ならびに国内外研究者からの積極的な投稿を募る。また、2011年6月から新稼働のJ-Stageバージョン3（Scholar One Manuscript）のオンライン投稿審査システムにより、国際的な投稿審査体制の充実と審査期間の短縮を進める。さらに、早期公開システムの導入を進めるとともに、Impact Factorの引用率の向上に努める。

会員誌「オレオサイエンス」を12号発行する。第9号は、「オレオサイエンス60周年記念誌」として発行する。オレオサイエンス編集委員会は、総説38件からなる特集企画、解説、抄録、Q&Aなど有益情報の発信を推進するとともに、二色刷りの導入、会員が参画する紙面の充実など、さらに魅力ある会誌づくりに努める。また、これまでに掲載した総説のデジタルアーカイブをWeb公開し、情報公開を推進する。

2.1.2 人材教育

第13回フレッシュマンセミナーは、5月に「油脂と脂質」、6月に「界面科学と界面活性剤」についてそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。アドバンスセミナーは企業中堅層のニーズに即した企画を立て、前年同様「油脂と脂質」および「界面科学と界面活性剤」について開催し、人材育成を図る。若手の会については、「2012年若手の会サマースクール」を8月に愛知健康プラザにおいて開催し、若手研究者・技術者の活発な交流をはかる。

上記のアドバンスセミナー等の本部事業は年4回の企画・部会統括委員会の開催により企画、運営を行う。また、次項以降の各支部、専門部会は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行うが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議でスケジュール調整、相互の情報交換などを行う。

2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に、著しい成果をあげた研究者を表彰する。若手の研究者を奨励するため、日本油化学会進歩賞、ヤングフェロー賞、学生奨励賞を授与する。また研究成果を表彰するため、日本油化学会学会賞、工業技術賞、エディター賞、オレオサイエンス賞、ベストオーサー賞を授与する。また本会に貢献した会員の表彰も行う。

2.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公2）

油脂および油脂食品の研究や品質管理等におけるデータの利用については、統一された試験法により得られたデータであることが強く求められている。その基準となる分析試験法として『基準油脂分析試験法』を刊行しているが、今年度は新規の試験法を策定すると共に、昨年度に引き続いて従来の試験法の見直し作業を進め、年度内に改訂版を発刊する。また国際性も考慮し、英文試験法の改訂版（CD版を予定）も併せて発行する予定である。また、品質管理や研究開発を担う技術系職員及び学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11月に第10回界面活性剤評価・試験法セミナーおよび第12回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化

学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。

2.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公3）

各支部による講演会・セミナー等は、例年に倣い開催する。また支部活動の一環である地区講演会・セミナー（(財)油脂工業会館共催）は10月に岡山市（関西支部）、仙台市（関東支部）、11月に上田市（東海支部）、12月に金沢市（関西支部）の4ヶ所で開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

また、本会が創立60周年迎えたこと、公益社団法人として新たな第一歩を踏み出したことを記念して、一般の方たち（幼稚園児から大人まで）を対象に、日常生活とオレオサイエンス（油化学）との深い関わりを知って頂くためのイベント「オレオサイエンス フェア」を8月に関東地区で開催する。

2.4 学術専門分野の活性化事業（公4）

専門部会活動については、前年同様、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会および食品油脂機能構造部会の7部会体制で展開する。油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。

（第380回 理事会決議）